

# 1. 評価結果概要表

作成日 2008年3月12日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3271400172		
法人名	社会福祉法人 あおぞら福祉会		
事業所名	老人グループホーム とぎしの家		
所在地	島根県雲南市大東町東阿用83-1 (電 話) 0854-43-6555		
評価機関名	特定非営利活動法人 コンティゴしまね		
所在地	島根県松江市西持田町362-42		
訪問調査日	平成20年2月5日	評価確定日	平成20年3月12日

## 【情報提供票より】(H19年10月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 1月 6日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	21 人	常勤	7人, 非常勤 14人, 常勤換算 7.3人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての		1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円
敷 金	有( 円) <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有( 100,000 円) <input type="radio"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,300 円

### (4) 利用者の概要( 10月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1		名	要介護2	1	名	
要介護3		名	要介護4	2	名	
要介護5	6	名	要支援2		名	
年齢	平均	88.44 歳	最低	78 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立雲南総合病院 ・ 横山医院
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

とぎしの家は、併設のデイサービスと共に、利用者の不安の解消や家族支援として、お試し宿泊や事前訪問など地域のニーズに応え、地域に密着した多様な取り組みを展開している。新規にグループホームで共用型通所介護、短期利用共同生活介護を開始し、グループホームの先駆的、指導的存在として活動している。ホームは開設以来8年が経過し、長期利用などで高齢化、重度化してきているが、開設当初から医師との連携により終の棲家として取組み、安心と信頼を得ている。また、地域のボランティア生活支援互助ネット「けあきの会」の事務局を引き受け、災害時の避難場所等の役割を担うことも検討している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の要改善点、トイレの消臭対策、できることできないこと等のアセスメントや個人記録の充実等についてカンファレンス、職員会で検討し、改善につなげている。トイレの消臭対策はバリアフリー等構造的なものが要因となっているため継続して検討している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の意義を理解して全職員で実施している。前回の評価を踏まえ2名1組のチームを作り全員で取り組み、課題を明確にしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>今年度は、7月、10月、1月に雲南広域連合、地域包括支援センター、外部評価機関、民生委員、家族、管理者、主任を構成委員として開催し、ホームの実態やサービスの実際、外部評価結果や改善策など多岐にわたって意見交換を行い、理解と協力が得られるよう取り組んでいる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情相談窓口を重要事項説明書に明示している。家族の意見は些細な事でも苦情ととらえ、記録し職員会で報告するなど積極的に聞くように取り組んでいる。毎月の利用料を直接持参して支払うシステムで家族に生活の様子をみてもらい、日々の状況を直接話すようにしている。広報紙「あおぞら」により活動状況を伝たり、家族会との連携をはかっている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域のとんど祭りや七夕祭りなど積極的に参加している。ホーム主催の納涼祭も地元住民を招いて毎年開催している。小学校や同じ法人の保育園児との交流や学校帰りの子供達の立ち寄りなどふれあい交流は楽しみになっている。日常的にスーパーへ買い物に出かける事は減りつつあるが、ドライブしたり、喫茶店へ出かけたり、小集団遠足と名付け3名つつ近隣の温泉へ出かけたり、泊まりかけや日帰り旅行、近くの温泉で望年会(忘年会)を開催するなど地域との関わりを継続させている。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の運営理念「利用者の意志と人格の尊重」、「地域密着小規模多機能サービスの提供」「利用者の能力を生かす支援」に基づき、住み慣れた地域で安心して暮らし続け、経験や能力を活かした生活の支援づくりと利用者の立場にたったサービスの提供に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	パンフレット等に記載し周知をはかり、職員に対しては職員会等で共有し実践できるよう取り組んでいる。しかしホーム内への掲示がないため、日々常に目にしたり、意識する機会に乏しく、利用者にも伝わりにくくなっている。	○	長期利用、高齢化、重度化など利用者のニーズの変化をとらえ、職員自身の言葉で、また利用者理解しやすい表現で掲示して支援の充実につながることを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	とんど祭、七夕行事など地域の行事へ参加したり、ホームの納涼祭などで地元住民や学校、保育所児とふれあい交流を行っている。また地域のボランティア生活支援互助ネット「けあきの会」の事務局を引き受けコーディネート等を積極的に行い、災害時の避難場所等の役割を担うことも検討している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義を理解して今回も全職員で実施している。前回の要改善点であったトイレの消臭対策、できないこと等のアセスメントや個人記録の充実等についてカンファレンス、職員会で検討し改善につなげている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、7月、10月、1月に雲南広域連合、地域包括支援センター、外部評価機関、地元民生委員、家族、管理者、主任を構成委員として開催し、ホームの実態やサービスの実際、外部評価結果や改善策など多岐にわたって意見交換を行い、理解と協力が得られるよう取り組んでいる。	○	より身近なボランティアや近隣者、小学校等関係者、一般職員等も随時出席できるような柔軟な体制をとり、幅広い意見や連携がはかれることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市介護サービス連絡会、地域包括支援センターによる認知症グループホーム適正実地指導を受けたり、市グループホーム部会の研修活動等積極的に参加し、運営、環境、サービスについて質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族との連携においては、毎月の利用料支払いを持参払いにして、お互いに意思の疎通をはかり、日々の状況を直接話すようにしている。広報誌「あおぞら」を当番を決めて発行しホームの活動を紹介したり、家族へ行事参加の案内をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見は苦情ととらえ、些細な意見でも毎月の職員会議で取り上げ話している。苦情処理簿に記入し、報告、各担当ごとに検討して、その対応について職員全体に周知している。	○	家族会も活用して、家族同士で意見や要望を話し合えるような機会も工夫してほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	平成12年1月開設以来職員の離職はほとんどなく、年齢構成やバランスもよい。また、隣接のデイサービスとの兼務により、利用者との馴染みの関係が継続できるような体制になっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県主催の各種研修会、しまね小規模ケア連絡会や市グループホーム部会などへ職員の希望も考慮して積極的に派遣している。復命も職員会等で実施している。運営面でも物品、危険物、消防、出納、給食、畑、たより等の係を設け責任だけでなく決定権も与え意欲と働き甲斐をもてるようにしている。	○	今回の自己評価で人権、拘束、救急法等の研修課題を明確にしているので、転倒・骨折予防等についても更なる研鑽を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市介護サービス連絡会、市グループホーム部会等に積極的に職員を出席させ、情報交換、意見交換をしている。また、交流会にも積極的に参加をすすめ、その経費についても配慮をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者のほとんどが、併設のデイサービス利用からの入居で、ホームの様子や職員のことを本人も家族も知っており、安心して利用できている。お試しのお泊りサービスもあり、初期対応を見極めできるよう務めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人のペースに合わせて穏やかで和やかな生活支援がくりひろげられている。長期利用で高齢、重度化し要介護度4、5の利用者が89%となり本人のできることは限られてきているが、生活が実感できるよう支援している。干し大根づくりなど小学校児童との交流に取り入れたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	声かけにより本人の意思を確認している。デイサービスからグループホームへ入居する人がほとんどで、記録も引継ぎし、アセスメントや長い付き合いの中で表情を見て判断したり、家族との会話で工夫して把握している。	○	ADLや健康面のアセスメントはできているが、習慣や暮らしのアセスメントはデイサービスからの情報そのままなので、グループホーム入居時に暮らし方の希望や意向についてのアセスメントも行ってほしい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は担当者が、本人、家族との日頃の関わり合いの中から意向を聞き作成している。デイサービス利用から入居となることが多くデイサービス職員、看護師も含め全員参加のカンファレンスで中広い意見交換を行い決定している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回介護計画の見直しをしている。また入院直後など利用者の状態が変化した時にはその都度見直しをしている。あまり変化のない場合でも家族に要望を聞いたり、生活日誌を参考に見直しにつなげ、毎月のカンファレンスで全員に徹底させている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	共用型通所介護、短期利用共同生活介護による支援、医療連携体制を生かす看取り支援、早期退院支援の他に宿泊サービス等も行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前と同じかかりつけ医と連携して対応している。協力医療機関へ24時間相談できる体制がある。受診付き添いはできるだけホームの方で対応している。歯科は訪問診療を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制がありケースごとに看取りの確認書を作成して、家族、かかりつけ医、看護師と方針を共有している。昨年末には1人の利用者を看取ったが、家族の付き添い、かかりつけ医の協力もあり、全員で看取り支援が出来た。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導の際の配慮や、本人のことを本人や他の利用者の前で話すなどプライバシーに配慮できていないと自己評価をしているが、生活日誌に反省点を記入したり、管理者から主任へ、主任から職員へと言葉づかいなどの注意ができる体制になっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、車椅子の人やミキサー食の利用者もあり、食事の時間なども個々のペースを尊重した支援をしている。併設のデイサービスとの交流もあり希望に沿って個別の対応をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は併設のデイサービスの台所で作り、盛り付けをホームで利用者で行っている。朝、夕食はホームで作っている。野菜の下ごしらえなど手伝ってもらい、できるだけ一緒にするようにしている。誕生日はお好みメニューや外食もでき、楽しみにしている利用者もいる。パン食、米飯食の選択も可能である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望すれば毎日でも入浴できるが、現在毎日入浴を希望する利用者はいない。重度化する中で、本人の希望や体調に合わせて2日に1回は入浴してもらうよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	2年に1回泊まりがけ、1年に1回日帰り旅行、近くの温泉で望年会(忘年会)など外へ出かける機会を設けている。役割など出来ることは少なくなってきているが、洗濯物たたみ、テーブル拭きなど出来る範囲内で支援している。小学校の子供たちに干し大根を教えることを楽しみにしている利用者もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、外で日向ぼっこをしたり、併設デイサービスの利用者と畑作業をしたりすることもある。重度化する中で日常的にスーパーへ買い物に行くような事は減りつつあるが、ドライブしたり、喫茶店へ出かけたりする機会を作っている。また小集団遠足と名付け3名づつ温泉へ出かけることもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関等は施錠されておらず、職員も日中利用者と同じ場所で過ごすことなど、さりげなく利用者の状況を把握して自由な暮らしを支援している。最近では1人で外出される利用者は少なくなってきている。居室からウッドデッキへでることができ、段差にも配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火、避難訓練は年に2回地元消防団と連携して行っている。昼間と夜間を想定した訓練を行っている。消火器の使い方も訓練している。火災の緊急通報システムも整備し、近隣の10名の職員が、有事の際には5分以内で駆けつけることが出来る体制になっている。	○	近隣者の応援体制や災害時の備蓄品の充実にも期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の状況にあわせミキサー食や刻み食を提供している。医師の指示のあった人など必要に応じて摂取量の把握や水分のチェックをしている。必要な場合は、高カロリー食も提供している。出来るだけ野菜の多い献立を考えており利用者と一緒に作った畑のものを利用するよう心がけている。	○	栄養士を講師に職員研修も行われているが、定期的に、1日全体をとおした全体量、バランスなど栄養の観点からもチェックしてもらいたい体制を試みてほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	こじんまりとした家庭的な雰囲気であり、壁には季節感のある手づくりカレンダーや小学校の子供たちの作ったちぎり絵など飾っている。利用者は居間兼食堂に集まって過ごすことが多い。コタツもありそこで横になって過ごすこともできる。陽あたりがよく外も見渡せるサンルームがありそこで食事をされる利用者もいる。椅子の消音対策も家族の知恵で工夫している。	○	空きマットや空きベッドが共用空間に置かれているが、収納方法、場所について話し合ってみてほしい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は洋室であるが、希望により畳を敷いて和室にすることも出来る。使い慣れた家具を持ち込み、亡き夫や、ひ孫の写真を飾り自分らしさを表現できた落ち着いた空間になっている。各居室に専用のトイレと洗面所があり、花など飾り居心地の良い居室となっている。夫婦2名でも使用できる広さになっている。		